

講義概要

基礎分野

No.		科目名	学年	備考
1	科学的思考の基盤	情報科学	1年生	
2		教育原理	1年生	
3		看護物理学	1年生	
4		文章表現	1年生	
5	人間と生活・社会の理解	法学	1年生	
6		経済学	3年生	
7		心理学	1年生	
8		人間関係学	1年生	
9		国際文化論	1年生	
10		文学	1年生	
11		健康とスポーツ	1年生	
12		コミュニケーション英語	1年生	
13		中国語	2年生	
14		芸術と創造	1年生	

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 情報科学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①情報の種類・取り扱いについて理解する。 ②パソコンの基礎操作ができ、簡単なプレゼンテーションができる。 ③看護に関する情報検索ができる。 ④情報交換および情報共有（メール）ができる。			
【授業形態】 本科目は大学において情報の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 ①日本語のローマ字のつづりを予め確認しておく。 ②授業中に流れについて行けなかったり欠席した場合は、他に時間を設けて課題を完成させておく。 ③テーマ発表のための資料集めは事前に行っておく。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	機器操作入門と WindowsOS 及びメーカー設定、情報モラル		
2	マウス操作と文字入力練習（タッチタイプ）及びファイル操作		
3	ワープロソフト	・ Word の起動 ・ 機能説明 ・ 日本語入力	
4		・ 切り貼り ・ 文字位置 ・ 文字修飾	
5		・ 図形の作成 ・ 画像の挿入と修飾	
6		・ Excel の起動 ・ 機能説明 ・ 書式、書体	
7	表計算ソフト	・ 数式 ・ 関数	
8		・ グラフの作成	
9		・ 応用	
10	情報検索とプレゼンテーションの概要	・ 自分が興味 ・ 関心あることの検索（文献）と Power Point の機能説明	
11	プレゼンテーションソフト	・ スライド作成	
12		・ メールでのファイル提出と発表練習	
13	看護に関するテーマ発表	・ 実技試験(1)	
14		・ 実技試験(2)	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施・筆記試験・レポート及び実技試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・ Microsoft Office2019 を使った情報リテラシーの基礎【近代科学社】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 教育原理			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①「教育とは何か」「教育とはいかにあるべきか」という根源的な問いについて、幅広い視野で考え、教育学の基礎的な知識を習得する。 ②人間の発達をふまえ、家庭教育、学校教育、生涯学習・社会教育それぞれの意義と役割について理解する。 ③現代の子どもをめぐる諸問題について理解し、医療者として必要な実践的な対応のあり方について理解する。 グループディスカッションでは、自己の意見を適切に述べる。			
【授業形態】 本科目は講義形式を基本とするが、適宜、グループワーク等も行う。			
【事前・事後学習】 講義レジュメ等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習することが望ましい。			
【回数】	【講義内容】		【備考】
1	I 授業の概要—教育とは何か—		
2	II 教育と看護—医療者として教育を学ぶ意義—		
3	III 子どもの学び		
4	IV 教育の歴史的変遷(1) 戦前		
5	IV 教育の歴史的変遷(2) 戦後		
6	V 義務教育の制度		
7	VI 教育における平等(1) 無償性		
8	VI 教育における平等(2) 今日の課題		
9	VII 多様な教育機会確保と学びの保障		
10	VIII 人間の発達と教育		
11	IX 家庭教育		
12	X 教育における現代的諸課題		
13	XI 生涯を通じた学び(1) 生涯学習と社会教育		
14	XI 生涯を通じた学び(2) ライフステージと生涯学習		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 なし。毎回、配布するレジュメ・資料に沿って講義を行う。			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護物理学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①物理学がどのように医療に応用されているか理解する ②日常使われている原理から基本的な物理的法則を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験または臨床工学技士の資格を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	物理学とは	・物理学とは ・物理量と単位 ・力とベクトル ・力とは ・力のモーメントとは	
2	重いものをもつこと	・てこの原理と人体の関係性 ・腰に力をかけること ・姿勢	
3	ボディメカニクスと物理	【演習】患者の体位と看護師の動作の関連	
4		・患者の体位と看護師の動作の関連	
5		・ボディメカニクスの物理的重点	
6	圧力の及ぼす影響	・圧力と気圧の関係	
7		・血液循環と血圧の関係	
8		・注射針と圧力	
9		・体を支える圧力	
10	呼吸器と吸引の原理	・呼吸運動のメカニズム	
11		・ドレナージ、サイフォンの原理	
12	点滴静脈内注射と物理	・点滴ボトルの高さと圧力の関係	
13		【演習】ドレナージ、サイフォン	
14	感覚器と原理	・感覚刺激と機能の関係	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・看護学生のための物理学 第5版【医学書院】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 文章表現			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
科目目標 ①社会関係構築能力、コミュニケーション力を育成することを目的に必要な基礎的な日本語表現を習得する。 ②文章の目的、読み手、場に配慮した表現を理解する。			
【授業形態】 本科目は大学において文章表現の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	やさしい日本語	聞き手に適切な表現を考える	
2	自己紹介	聞き手や目的に合わせたことば遣いを知る	
3	正しい日本語	多様な表現を知る	
4	敬語	聞き手や目的に合わせた表現を考える	
5	メモを取る	要点をおさえて記録する	
6	読解する	読み方を知る	
7	要約する	要点をおさえてまとめる	
8	説明する	相手を念頭におき説明する	
9	発表する	視覚資料の種類と用途	
10	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出する	
11	結論を先に述べる	伝わる構成	
12	メールを書く	書式を意識して書く	
13	レポートを書く（1）	何を書くのか考える	
14	レポートを書く（2）	レポートのことば	
15	発表する	発表	
【評価方法】 ・毎回、授業時に提出を課す。テストは実施しない。			
【テキスト・教科書】 ・野呂幾久子『看護系学生のための日本語表現トレーニング』（三省堂、2013年）			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 法学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①社会生活において法が果している役割を理解する。			
【授業形態】 本科目は大学において法律の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】		【備考】
1	看護と法－法律学の基礎（法と道徳、法の区分など）		
2	日本国憲法と医療のかかわり（13条、25条を中心に基本的人権の概要）		
3	民事責任－不法行為法（不法行為の成立要件、損害賠償責任など）		
4	刑事責任－刑事事件はどう裁かれるか（看護師の過失、刑事訴訟手続の基礎）		
5	プライバシーと患者情報の取り扱い		
6	労働法の基礎－看護師として働くということ（労働法、女性と労働、労働災害）		
7	医療にかかわる法（医療保険・介護保険のしくみ、障がい者にかかわる各種法律、公衆衛生）		
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・法の世界へ 第9版【有斐閣】			
【サブテキスト】 ・ポケット六法 令和6年度版【有斐閣】 ・看護のための法学 第5版 自律的・主体的な看護をめざして 【ミネルヴァ書房】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科目名】 経済学			
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ	
【科目目標】 ①市場経済の原理と実際を理解する。 ②経済政策の仕組みを理解する。 ③社会保障・雇用問題の視点をふまえて、社会政策の意義と実際を理解する。 ④世界の国々との比較の中で、日本の社会保障と経済の現状について理解する。			
【授業形態】 本科目は大学において経済学の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	経済の仕組み	・需要と供給 ・価格 ・マクロ経済	
2		・GDP ・有効需要 ・成長、景気	
3	経済と政府、社会保障	・財政政策 ・雇用 ・失業 ・社会保障	
4	経済と金融、社会保障	・金融政策 ・銀行 ・株式市場 ・年金	
5	諸外国の経済と社会保障(1) アメリカ	・アメリカの医療保険	
6	諸外国の経済と社会保障(2) ヨーロッパ	・ヨーロッパの医療保険	
7	諸外国との比較でみた日本の社会保障	・日本の社会保障の特徴	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 筆記試験(80%) 出席点(20%)によって評価する			
【テキスト・教科書】 プリント配布(テキストは使用しません) 参考書 日経ビジネス編『日経ビジネス 日本経済入門』 日経BP社 2014年			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 心理学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ① 人間の心理や行動の基礎にある原理を「心理学」を通して学び、理解する。 ② 人間の心の状態はどのように客観的に観察されるのかを知り、医療現場で応用できる。 ③ 人間の行動特性、性格、感情認知機能等を理解し、医療現場で適切な配慮ができる。 ④ 医療現場においてホスピタリティをもったコミュニケーションが展開できる。			
【授業形態】 本科目は大学において心理学の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を閲覧して予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	第2章 感覚と知覚	・知覚の成立と諸相 ・錯視/錯覚 ・社会的知覚	
2	第3章 記憶	・記憶のメカニズム ・忘却/記憶の歪み/病理	
3	第4章 思考・言語・知能	・思考と言語 ・知能とは ・知能の測定 ・知的障害	
4	第5章 学習Ⅰ	・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・臨床応用	
5	第5章 学習Ⅱ	・社会的学習 ・技能学習 ※1-5 コマのまとめ	
6	第6章 感情	・感情の分類とメカニズム ・フラストレーション	
7	第6章 動機づけ	・葛藤/欲求不満 ・自己効力感 ・学習性無力	
8	第7章 パーソナリティ	・性格の理論 ・性格の測定 ・パーソナリティの障害	
9	第8章 発達Ⅰ	・遺伝と環境 ・発達段階と発達課題 ・誕生～児童期	
10	第9章 発達Ⅱ	・青年期 ・成人期 ・高齢期	
11	第10章 心理臨床	・ストレス理論 ・心の適応と不適応 ・対処行動	
12	第11章 対人援助	・看護と対人援助 ・災害時の心のケア	
13	第11章 患者の心理	・病期による患者の心理 ・死の受容	
14	第11章 看護職の心のケア	・ストレスマネジメント ・看護職とバーンアウト	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・課題レポートや演習への参加態度も考慮し、総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 基礎分野 心理学【医学書院】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 人間関係学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ① 人間関係を理解する基礎的知識を主に社会心理学の理論を通して学ぶ。 ② 良好な人間関係を構築する技法を学び、臨床場面に応じた相互関係を展開できる。			
【授業形態】 本科目は大学において人間関係学の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を閲覧して予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【担当】
1	第1章 人間関係の中の自己と他者	・自己認知 ・対人認知 ・印象形成	
2	第2章 対人関係と役割	・対人関係理論 ・対人葛藤 ・社会的役割	
3	第3章 態度と対人行動(1)	・態度 ・認知的不協和 ・説得(態度の変容)	
4	第3章 態度と対人行動(2)	・攻撃性 ・傍観者効果 ・援助行動	
5	第4章 集団と個人	・集団の特性 ・社会的影響	
6	第5章 コミュニケーション	・対人コミュニケーションとその障害	
7	第6章 カウンセリングと心理療法	・来談者中心療法 ・認知行動療法	
8	第7章 コーチング	・コーチングの理論とスキル ・臨床応用	
9	第8章 アサーティブ-コミュニケーション	・アサーションの理論とスキル ・臨床応用	
10	第9章 保健医療チームの人間関係	・チームにおける看護師の役割 ・多職種連携	
11	第10章 患者を支える人間関係(1)	・患者と医療者の関係 ・リフレクション	
12	第10章 患者を支える人間関係(2)	・慢性疾患/終末期/高齢者や子どもとの関わり	
13	第11章 家族を含めた人間関係	・家族関係論 ・終末期患者の家族・遺族の支援	
14	第12章 地域をつくる人間関係	・ソーシャルサポート ・ピアサポート ・障害者差別解消法と合理的配慮 ・共生社会	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・課題レポートや演習への参加態度も考慮し、総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 基礎分野 人間関係論【医学書院】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師
【科 目 名】 国際文化論		
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ
<p>【科目目標】 この授業では「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」を軸に、発展途上国を対象とした国際協力や国際開発について学んでいきます。私たちの日常生活がどのようにSDGsの実現や国際協力につながるのか、あるいは否定的な影響を与えるのかを認識するためにファストファッションや食品ロス、使い捨てプラスチック製品など、身近な話題についてもとりあげます。一人ひとりが日常生活において、自分なりの国際協力を実践できるようになることをめざします。</p> <p>【授業形態】 ほぼ毎回、3～4人程度のグループをつくり、グループ・ディスカッションやワークショップなど、アクティブラーニング型の授業を行います。</p> <p>【事前・事後学習】 事前学習として、文献の指定箇所を精読する。事後学習として、文献やレジュメをもとに授業の内容を復習する。</p>		
【回数】	【講義項目】	【備考】
1	イントロダクション：国際協力とは？	
2	国際協力と持続可能な開発目標（SDGs）	
3	貧困と飢餓（SDGs 1, 2）	
4	「援助」することの意味を考える	
5	保健・健康（SDGs 3）	
6	なぜ、どのように人を助けるのか（SDGs 17）	
7	質の高い教育（SDGs 4）、ジェンダー平等、女性と女の子のエンパワーメント（SDGs 5）	
8	開発援助という行為と用語	
9	「善意は善行を保証しない」（SDGs 6）	
10	どのようにニーズを把握するか	
11	持続可能な消費と生産（SDGs 12）	
12	大量廃棄社会の実態：ファストファッションと食品ロス	
13	SDGs 実現に向けた企業のとりくみ	
14	気候変動とパリ協定（SDGs 13）、陸と海の生物多様性（SDGs 14, 15）	
15	まとめと振り返り	
<p>【評価方法】 コメント・ペーパー（30%）と期末レポート（70%）を合わせて総合的に評価します。</p>		
<p>【テキスト・教科書】 授業中に文献を配布します。</p>		

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 文学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①その時代人の情緒、感性を学び、併せて現代を生きる自己の人格陶冶に資することとする。 ②表現学習を通して表現力を養い、社会生活に資することとする。			
【授業形態】 本科目は大学において文学の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	文学通史・概論	・近現代 小説（明治・大正）	
2		・ 〃 〃 （戦前）	
3		・ 〃 〃 （戦後）	
4		・ 〃 〃 詩歌	
5		・ 〃 〃 評論	
6	表現演習	・語彙論	
7		・文体論 ・総合	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・プリント配布			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 健康とスポーツ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①身体を動かすことの意識を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を習得する ②運動やスポーツ、レクリエーション活動の中から、技術・方法と併せて、コミュニケーションの楽しさ、生涯スポーツとしての楽しみ方、スポーツを通して支援のあり方等について習得する 【授業形態】 本科目はスポーツの教育に関する実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義内容・講義項目】		【備考】
1	オリエンテーション		
2	体力を知る 柔軟性 筋力について		
3	体力を知る 全身持久力について		
4	柔軟性を高める ストレッチの方法(1)		
5	柔軟性を高める ストレッチの方法(2)		
6	筋力を高める 筋力トレーニングの方法(1)		
7	筋力を高める 筋力トレーニングの方法(2)		
8	全身持久力を高める 有酸素運動の方法(1)		
9	全身持久力を高める 有酸素運動の方法(2)		
10	軽スポーツ(1)		
11	軽スポーツ(2)		
12	軽スポーツ(3)		
13	軽スポーツ(4)		
14	体力の確認		
15	まとめ 講義の振り返り レポートの書き方		
【評価方法】 ・出席状況とレポートによって総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・適宜プリント配布			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 コミュニカティブイングリッシュ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①様々な文化・生活習慣・ニーズに対応できる基礎的媒体手段としての英語力を習得し、実践を目指す。 ②看護に必要な情報源としての英語の基礎的知識を習得する。			
【授業形態】 本科目は高等学校において、英語の教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う。			
【事前・事後学習】 事前に教科書およびプリントを用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	オリエンテーション	自己紹介を兼ねて学生の英語能力を調べる 講義の進め方について説明	
2	テキスト Unit1 履修と英文読解	急に話しかけられたときの対応	
3	テキスト Unit2 履修と英文読解	自己紹介の際の質問と答え方	
4	テキスト Unit3 履修と英文読解	患者への質問例(1)	
5	テキスト Unit4 履修と英文読解	患者への質問例(2) 診療申込書記入/診療科名	
6	テキスト Unit5 履修と英文読解	道順の尋ね方、答え方	
7	テキスト Unit6 履修と英文読解	症状の尋ね方(1) 症状と兆候	
8	テキスト Unit7 履修と英文読解	症状の尋ね方(2) 人体各部の名称	
9	テキスト Unit8 履修と英文読解	病歴の尋ね方 病歴の聴取/病名	
10	テキスト Unit9 履修と英文読解	薬の服用に関する表現	
11	テキスト Unit10 履修と英文読解	・予約の取り方 ・時間の表現 ・検査の表現 (検査と患者への指示の仕方)	
12	テキスト Unit11 履修と英文読解	手術に関する表現	
13	テキスト Unit12 履修と英文読解	入院患者によくする質問	
14	テキスト総復習	ペアー・ワーク (実演) と英文読解	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する。			
【テキスト・教科書】 ・クリスティーンのやさしい看護英会話【医学書院】			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 中国語			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①中国語の基礎発音、単語、文法を理解し、簡単な日常生活の会話を習得する ②中国語表現の意味や使い方を理解する 【授業形態】 本科目は大学において中国語の教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	中国語の発音	・ピンインの母音の発音 ・挨拶の会話	
2		・ピンインの母音の発音 ・声調 ・声調符号	
3		・中国語の音節構造 ・音の仕組み	
4	表現と会話	・自己紹介 ・家族親族の呼び方	
5		・肯定と否定の表現	
6		・数、日付、時刻及び曜日の表現	
7		・変化、経験及び予定や計画の表現	
8		・質問や疑問の表現 ・会話トレーニング	
9		・食事、料理と味に関する会話	
10		・常用量詞について ・買い物の会話	
11		・願望や意識の表現	
12		・病気と病院について ・医療分野に関する用語と医療制度	
13		・因果関係の表現 ・会話のトレーニング	
14		・日本と中国の文化 ・医療の比較	
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・メディカル初級実践中国語【朝日出版社】 ・プリント配布			

【区 分】 基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 芸術と創造			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①感性や想像力の多様な働きを理解し、その表現や解釈を通じて様々なつながりを多角的に考える。 ②他者との対話を通じて、作品を多角的に捉える。 ③気づいたこと、感じたこと、考えたことについて、様々な言葉を駆使して表現する。			
【授業形態】 本科目は、大学での教育に関する実務経験を有する教員が講義を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	導入	・感性とは、想像力とは、表現とは	
2	芸術と生活	・日常生活における表現を考える	
3	芸術と表現	・自然を観照（鑑賞？）しどう表現するか	
4	芸術と言葉	・なぜ言葉で表現しようとするのか	
5	芸術と身体・他者・モノ	・身体との相互作用やズレについて考える	
6	音楽を語る	・音楽体験を言葉で語ることにについて考える	
7	造形と音楽	・造形と音楽の関係について考える	
8	芸術とメディア	・テクノロジーと芸術の関係について考える	
9	芸術概念の拡張	・芸術と社会の関係について考える(1)	
10		・芸術と社会の関係について考える(2)	
11	多様な組み合わせ	・新たな発見、気づき(1)	
12		・新たな発見、気づき(2)	
13	表現（アートについて）	・作品の説明、作品の無力と欠点	
14		・自分なりの解釈	
15	芸術と教育		
【評価方法】 ・出席状況とレポートによって総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 なし			

専門基礎分野

No.	科目名	学年	備考
15	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1年生
16		人体の構造と機能Ⅱ	1年生
17		人体の構造と機能Ⅲ	1年生
18		人体の構造と機能Ⅳ	1年生
19		形態機能学	1年生
20		生涯人間発達学Ⅰ	1年生
21		生涯人間発達学Ⅱ	1年生
22	疾病の成立と回復の促進	病理学	1年生
23		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ	1年生
24		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ	1年生
25		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ	1年生
26		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ	2年生
27		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅴ	1年生
28		病原微生物学	1年生
29		臨床栄養学	2年生
30		薬理学	2年生
31		健康支援と社会保障制度	社会福祉学
32	公衆衛生学		1年生
33	関係法規		3年生
34	医療概論		1年生
35	東洋医療		2年生
36	メンタルヘルス		1年生

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科目名】 人体の構造と機能 I			
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ	
【科目目標】 ①栄養の吸収・消化、呼吸と血液のはたらきにおける人体の構造と生物学的側面に関する基礎的知識を習得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。 ・各形態・機能ごとに統合できる学習（課題学習、グループ等）を取り入れる。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義内容・講義項目】		【備考】
1	序) 人体の構造と機能を学ぶために		
2	1) 人体の構造と機能	(1) 形からみた人体	
3		(2) 素材からみた人体①	
4		(2) 素材からみた人体②	
5		(3) 機能からみた人体	
6	2) 栄養の消化と機能	(1) 口・咽頭・食道の構造と機能	
7		(2) 腹部消化管の構造と機能①	
8		(2) 腹部消化管の構造と機能②	
9		(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	
10		(4) 腹膜	
11	3) 呼吸と血液の働き	(1) 呼吸器の構造	
12		(2) 呼吸①	
13		(2) 呼吸②	
14		(3) 血液	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・試験と講義中に行う小テストなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 人体の構造と機能Ⅱ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①血液の循環とその調節、体液の調節と量の成分、内臓器官の調節における人体の構造と生物学的側面に関する基礎的知識を習得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。 ・各形態・機能ごとに統合できる学習（課題学習、グループ等）を取り入れる。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義内容・講義項目】		【備考】
1	4) 血液の循環とその調節	(1) 末消循環系の構造	
2		(2) 心臓の構造	
3		(3) 心臓の拍出機能	
4		(4) 抹消循環系の構造	
5		(5) 血液の循環の調節	
6		(6) リンパとリンパ管	
7	5) 体液の調節と尿の生成	(1) 腎臓	
8		(2) 排尿路	
9		(3) 体液の調節	
10	6) 内臓機能と調節	(1) 自律神経による調節	
11		(2) 内分泌系による調節	
12		(3) 全身の内分泌系細胞	
13		(4) ホルモン分泌の調節	
14		(5) ホルモンによる調節の実際	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科目名】 人体の構造と機能Ⅲ			
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ	
【科目目標】 ①身体の支持と運動、情報の受容と処理における人体の構造と生物学的側面に関する基礎的知識を習得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	7) 身体の支持と運動	(1) 骨格とはどんなものか	
2		(2) 骨の連結	
3		(3) 骨格筋	
4		(4) 体感の骨格と筋	
5		(5) 上肢の骨格と筋	
6		(6) 下肢の骨格と筋	
7		(7) 頭頸部の骨格と筋	
8		(8) 筋の収縮	
9	8) 情報の受容と処理	(1) 神経系の構造と機能	
10		(2) 脊髄と脳	
11		(3) 脊髄神経と脳神経	
12		(4) 脳の高次機能	
13		(5) 感覚機能と上行伝達路	
13		(6) 眼の構造と視覚	
13		(7) 耳の構造と視覚	
14	(8) 味覚と嗅覚		
14	(9) 痛み（疼痛）		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 人体の構造と機能Ⅳ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【時 間 数】 15コマ	
【科目目標】 ①身体機能の防御と適応、生殖・発生と老化のしくみ人体の構造と生物学的側面に関する基礎的知識を習得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験と有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	1) 身体機能の防御と適応	(1) 皮膚の構造と機能	
2		(2) 生体の防御反応	
3		(3) 代謝と運動	
4		(4) 体温とその調節①	
5		(5) 体温とその調節②	
6	2) 生殖・発生と老化のしくみ	(1) 男性生殖器	
7		(2) 女性生殖器	
8	3) 受精と胎児の発生	(1) 生殖細胞と受精、(2) 初期発生と着床	
9		(3) 胎児と胎盤	
10	4) 成長と老化	(1) 小児の成長 ①成長に与える因子	
11		(1) 小児の成長 ②身長と体重の変化	
12		(1) 小児の成長 ③思春期における性成熟	
13		(2) 老化 ①老化のメカニズム	
14		(2) 老化 ②各器官系・組織における老化現象	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 形態機能学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【時 間 数】 15コマ	
【科目目標】 ①人体の構成に関わる、細胞と生体物質の構造・機能・代謝を理解する。 ②遺伝子発現のメカニズムを理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験の有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	生化学を学ぶための基礎知識	生化学とは、細胞の構造と機能	
2	代謝の基礎と酵素・補酵素（1）	代謝と生体のエネルギー、酵素の基礎知識	
3	代謝の基礎と酵素・補酵素（2）	補因子、ビタミン、酵素の反応速度・阻害	
4	糖質の構造と機能、糖質代謝（1）	単糖・二糖・多糖構造と機能	
5	糖質の構造と機能、糖質代謝（2）	糖質の消化と吸収、グルコースの分解	
6	糖質の構造と機能、糖質代謝（3）	グリコーゲン代謝、ペントースリン回路、糖新生	
7	脂質の構造と機能、脂質代謝（1）	脂質の種類、脂質の消化と吸収	
8	脂質の構造と機能、脂質代謝（2）	脂肪の分解	
9	タンパク質の構造と機能、代謝（1）	アミノ酸の特徴と分類、タンパク質の構造	
10	タンパク質の構造と機能、代謝（2）	タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の分解、非必須アミノ酸の合成	
11	エネルギー代謝	消化・吸収された栄養素の代謝	
12	内分泌の生化学的基盤	ホルモンの受容体とフィードバック調整	
13	遺伝情報とその発現	遺伝子の複製・転写・翻訳、 内分泌の生化学的基盤	
14	全体まとめ	ふりかえり	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 生涯人間発達学 I			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①胎児期から新生児期、乳児期、学童期、青年期、成人期、老年期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達における課題について学び、それぞれの時期の発達の特徴を体系的に理解する。(胎生期から青年期)			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	1) 生涯発達とは	・生涯人間発達学における発達理論	
2		・人間のライフサイクル、発達課題	
3	2) 妊娠・胎児期	・受胎、妊娠の経過、胎児期の成長	
4	3) 出産・誕生（新生児）	・分娩経過（帝王切開含む）、新生児の特徴	
5	4) 産褥の経過、新生児の特徴	・産褥期の変化、新生児の成長・発達の変化	
6	5) 乳児期の特徴	・身体的・精神的・社会的変化	
7	6) 幼児期（前期）	・身体的変化	
8		・精神的・社会的変化	
9	7) 幼児期（後期）	・身体的変化	
10		・精神的・社会的変化	
11	8) 学童期の特徴	・身体的変化	
12		・精神的・社会的変化	
13	9) 青年期の特徴	・身体的変化	
14		・精神的・社会的変化	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・配布資料			
【サブテキスト】 ・系統看護学講座 基礎分野 心理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 生涯人間発達学Ⅱ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
<p>【科目目標】</p> <p>①胎児期から新生児期、乳児期、学童期、青年期、成人期、老年期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達における課題について学び、それぞれの時期の発達の特徴を体系的に理解する。(成人期～老年)</p> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。 <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。</p>			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	1) 成人期（壮年期）の特徴	・身体的・精神的変化	
2		・情緒、社会機能変化	
3	2) 成人期（向老期）の特徴	・身体的・精神的・社会的変化	
4	3) 老年期の特徴	・身体的・精神的・社会的変化	
5		・死の理解の発達	
6	4) 生涯人間発達のまとめ	・人間の一生とは、人間の発達とは	
7		・まとめ	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・試験と講義中で行う小テストなどを総合して評価する。 			
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 <p>【サブテキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 基礎分野 心理学【医学書院】 			

【区 分】 専門基礎分野	【担当教員】 非常勤講師		
【科 目 名】 病理学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①医療行為を行う者に求められる、疾病の原因・発生機序についての幅広い知識を習得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	病理学とは 病気の原因	・看護と病理学 ・病気の原因（内因、外因） ・疾病の分類	
2	細胞・組織の障害と修復	・細胞の損傷と適応 ・組織の修復と創傷治癒	
3	循環障害	・浮腫 ・充血 ・鬱血 ・出血	
4		・血栓 ・塞栓 ・虚血 ・高血圧 ・DIC	
5	炎症と免疫、移植と再生医療	・炎症と分類 ・免疫と免疫不全	
6		・アレルギー ・自己免疫疾患	
7		・移植と再生医療	
8	感染症	・感染と宿主の防御機構 ・病原体と感染症	
9	代謝障害	・脂質・蛋白・糖質代謝異常	
10	老化と死	・老年症候群 ・個体の死と終末期医療	
11	先天障害と遺伝子異常	先天異常 ・遺伝性疾患 ・染色体異常による疾患	
12		・胎児の異常 ・先天異常 ・遺伝性疾患の診断	
13	腫瘍	・腫瘍の定義・分類 ・悪性腫瘍の広がりや影響	
14		・腫瘍の発生原理 ・診断と治療、統計	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学【医学書院】 ・わかりやすい病理学【南江堂】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師 ・ 専任教員	
【科 目 名】 疾病の成り立ちと回復の促進 I			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①精神障害のある人の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	脳のしくみと精神機能、症状	・脳と精神機能 ・ストレス脆弱性仮説 ・精神症状	外部講師
2	精神障害のある人が抱える症状と状態像	・精神症状と状態像 ・中枢神経症状	
3	精神障害の主な診療・検査・薬物療法	・診断の基礎と要点 ・神経学的検査 ・心理検査	外部講師
4	主な精神障害	・統合失調症スペクトラム障害 ・双極性障害 ・抑うつ障害	
5		・物質関連障害および嗜癖性障害	
6		・神経発達障害 ・パーソナリティ障害	
7		・心的外傷およびストレス因関連障害	
8	科目終了試験 および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新系統看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護【メジカルフレンド社】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①呼吸・循環器系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し治療の方法を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	A 呼吸器系の障害	・症状と病態生理（自覚症状、他覚症状）	
2		・検査と治療・処置	
3		・感染症（かぜ、急性気管支炎、インフルエンザ、肺炎）	
4		・間質性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス、塵肺）	
5		・気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、COPD）	
6		・肺循環疾患（肺血栓栓塞症、肺高血圧症）、呼吸不全	
7		・呼吸調節に関する疾患、肺腫瘍、胸膜の疾患（気胸）	
8	B 循環機能の障害	・症状と病態生理	
9		・検査と治療・処置	
10		・血圧異常（高血圧・低血圧）、心不全	
11		・不整脈（徐脈性・頻脈性）	
12		・虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、冠状動脈硬化	
13		・弁膜症、心膜炎、心筋疾患、肺性心	
14		・動脈系疾患、静脈系疾患、リンパ系疾患	
15	科目終了試験 および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 病理学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師 ・ 専任教員	
【科 目 名】 疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①血液・造血系、消化器系、内分泌・代謝系の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	A 血液・造血器の障害	・主な症候、検査・診断	外部講師
2		・赤血球系の異常（各種貧血他） ・発血球の異常	外部講師
3		・造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫） ・出血性疾患	外部講師
4	B 栄養の摂取・吸収機能の障害	・主な症状、検査と治療	外部講師
5		・食道、胃・十二指腸の疾患 （食道癌、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）	外部講師
6		・腸および腹膜疾患 （腸炎、腹膜炎、大腸がん、虫垂炎、腸閉塞）	外部講師
7		・肝臓の疾患（肝炎、肝硬変、肝がん）	外部講師
8		・胆嚢・膵臓の疾患（胆石症、胆のう炎、膵炎、膵がん）	外部講師
9	C 内分泌・代謝の障害	・主な症候、検査・診断	
10		・内分泌疾患（視床下部、下垂体前葉・後葉）	
11		・内分泌疾患（甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺、膵・消化器）	
12		・代謝疾患（糖尿病）（1）	
13		・代謝疾患（糖尿病）（2）	
14		・代謝疾患（脂質異常症、肥満症、尿酸代謝異常）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎 病理学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝【医学書院】			

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】	専任教員
【科 目 名】	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅳ		
【開講時期】	1年次	【単 位 数】	1単位
		【コ マ 数】	15コマ
【科目目標】 ①脳神経・運動器系の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【担当】
1	A 脳・神経機能の障害	・主な症状、検査・診断	
2		・脳疾患（脳梗塞・脳出血）	
3		・脳疾患（くも膜下出血）	
4		・脳疾患（脳腫瘍、頭部外傷、脳脊髄液の異常）	
5		・脊髄疾患 ・末梢神経障害	
6		・筋疾患・神経筋接合部疾患 ・脱髄・変性疾患	
7		・脳・神経系の感染症 ・中毒	
8		・てんかん ・認知症 ・内科疾患に伴う神経疾患	
9	B 運動機能の障害 (骨・関節・筋肉・神経筋接合部の疾患)	・主な症状、検査・診断	
10		・外因性（骨折、脱臼）	
11		・外因性（捻挫・打撲、神経損傷、筋・腱・靭帯）	
12		・内因性（先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患）	
13		・内因性 (骨腫瘍および軟部腫瘍、代謝性骨疾患、腱、神経・筋疾患)	
14		・内因性（脊椎の疾患、上・下肢および上肢帯の疾患、その他）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ※基本的に教員作成のハンドアウト（配布資料）を中心に授業を行う ・系統看護学講座 専門基礎分野 病理学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師 ・ 専任教員	
【科 目 名】 疾病の成り立ちと回復の促進V			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①腎機能系、女性生殖器系、アレルギー・膠原病・感染症の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し治療の方法を理解する。 ②エイズ、自己免疫疾患の疾病について基礎知識を習得し治療方法を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	A 腎・泌尿器の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・主な症状（乏尿、無尿、多尿、腎不全、酸・塩基平衡、他） ・検査・診断 ・透析療法 	外部講師
2		<ul style="list-style-type: none"> ・主な疾患（腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染、腎不全） 	外部講師
3	B 女性生殖器の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・主な疾患（子宮内膜症、性感染症、子宮筋腫） 	
4		<ul style="list-style-type: none"> ・子宮（体・頸）がん、乳がん 	
5	C 免疫機能の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー性疾患（生体防御、免疫、アレルギー反応（I～IV）、喘息アナフィラキシー） 	外部講師
6		<ul style="list-style-type: none"> ・膠原病（全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群） 	外部講師
7		<ul style="list-style-type: none"> ・免疫不全（感染症、SIRS、鳥インフルエンザ、AIDS） 	外部講師
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する 			
【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器【医学書院】 ・ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑨ 女性生殖器【メディカ出版】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症【医学書院】 			

【区 分】	専門基礎分野	【担当教員】	非常勤講師
【科 目 名】	病原微生物学		
【開講時期】	1年次	【単 位 数】	1単位
		【コ マ 数】	15コマ
【科目目標】 ①微生物の実際を知り、そうした微生物がどのような感染症を引き起こすかを理解する。 ②その感染症を防止する対策の在り方を医療現場との関連において具体的にどのようなものであるか、その理解を深めるようにする。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義内容】		【備考】
1	病原微生物学学習の意義・高校理科（生物）・保健体育の見直し		
2	感染症とは		
3	免疫(1)		
4	免疫(2)		
5	細菌		
6	ウイルス		
7	真菌		
8	原虫		
9	寄生虫		
10	感染症の診断・治療・予防・制御		
11	病原微生物学各論(1)		
12	病原微生物学各論(2)		
13	病原微生物学各論(3)		
14	感染症の疫学		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・はじめて学ぶ人のための目で見える教科書：はじめの一步のイラスト「感染症・微生物学」 （本田武司／編）【羊土社】			
【サブテキスト】 ・新改訂版 パワーアップ問題演習 微生物学（著／西條政幸）【サイオ出版】 ・学習に関連する参考コピーを提供する。			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 臨床栄養学			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方を理解する。 ②食事療法の基礎的知識を理解する。 【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	栄養食事療法とは 栄養食事療法の実際	栄養食事療法の概要 病人食の分類と特徴、栄養アセスメントの基本	
2	「栄養学」の基礎知識	栄養素の種類と働き	
3	日本人の食事摂取基準	エネルギーの指標・栄養素の3つの目的と5つの指標	
	呼吸器疾患患者の栄養食事療法	肺炎・慢性閉塞性肺炎疾患	
4	循環器疾患患者の栄養食事療法	高血圧症・動脈硬化症・心不全・脳血管障害	
5	消化器疾患患者の栄養食事療法	上部消化管疾患・下部消化管疾患	
6	消化管全般にわたる疾患	肝・胆疾患・肝硬変・脂肪肝・胆石症・膵炎	
7	腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法	腎疾患・泌尿器疾患	
8	栄養代謝疾患患者の栄養食事療法	肥満・糖尿病	
9	血液疾患患者の栄養食事療法	脂質異常症・高尿酸血症（痛風）・貧血	
10	アレルギー・神経疾患等の栄養食事療法	食物アレルギー・摂食障害・熱傷・褥瘡	
11	術前・術後の栄養管理	栄養アセスメント・術前術後の栄養管理	
	がん患者の栄養食事療法管理	がんの発症と食事・栄養	
12	妊産婦・小児の栄養食事療法	妊産婦の栄養管理の原則	
13	高齢者の栄養管理	高齢者の栄養管理	
14	「食生活と看護の関わり」グループワーク		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 別巻 栄養食事療法【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 薬理学			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①臨床において適切な薬物療法を実践するために、薬物の薬理作用、副作用、生体と薬物の相互作用を学習し、臨床で使用される薬剤の正しい知識と適切な使用法を修得する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	薬理学とはなにか	・薬物療法の目的 ・看護師の役割、 ・薬理作用の基本形式	
2	薬物動態	・薬物の作用機序（投与経路、体内動態）	
3	薬物相互作用、薬物使用の影響	・薬物の副作用（薬物の連用、併用、相互作用）	
4	医薬品に関する法律	・医薬品の管理（法令、処方箋、添付文書）	
5	感染症治療に関する事項	・抗感染症薬	
6	がん治療・免疫治療に関する事項	・抗がん薬 免疫治療薬	
7	抗アレルギー薬・炎症と抗炎症薬	・抗アレルギー薬、抗炎症薬	
8	末梢での神経活動に作用する薬物	・末梢神経作用薬 （局所麻酔薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬）	
9	中枢神経系に作用する薬物	・全身麻酔薬 ・催眠薬・抗不安薬	
10		・抗精神薬 ・パーキンソン治療薬 ・抗てんかん薬 ・麻酔鎮痛薬	
11	心臓・血管系に作用する薬物	・抗高血圧薬 ・狭心症薬 ・心不全治療 ・抗不整脈薬	
12	血液に関する薬物	・貧血治療薬 ・抗凝固薬 ・血栓治療薬（抗血小板薬、止血薬）	
13	呼吸器・消化器に作用する薬物	・気管支喘息治療薬 ・消化性潰瘍治療薬 ・消化薬	
14	物質代謝に作用する薬物、漢方	・インスリン ・骨粗鬆症 ・漢方薬 ・治療薬	
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験（多肢選択式）・出欠状況・レポート提出によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 社会福祉学			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①看護に必要な社会福祉の知識を習得する。 ②社会福祉の実際を知り、身近な生活課題であることを理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	社会福祉の基礎概念	・社会福祉（学）のみかた 人権・権利	
2	社会福祉の援助の方法論	・ソーシャルワークの体系 社会福祉のしくみ	
3	社会福祉に関する資格制度	・社会福祉機関と資格、社会福祉の機関と施設	
4	ライフサイクルと社会福祉	・子ども家庭と福祉	
5		・障がい者福祉	
6		・高齢者福祉 ・介護保険制度 介護ケアシステム	
7	社会保障制度の概要	・年金制度・医療保険制度	
8		・生活保護	
9		・雇用保険・労災保険制度	
10	地域福祉	・地域福祉の概念	
11		・ソーシャルサポートネットワーク、成年後見制度	
12	社会福祉の歴史的発達	・これからの社会福祉	
13	まとめ	・国家試験過去問題の解説①	
14		・国家試験過去問題の解説②	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・よくわかる社会福祉【ミネルヴァ書房】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 公衆衛生学			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①社会における公衆衛生の意義、および、活動方法の特性を理解する。 ②集団の健康状態を知る方法を理解する。 ③公衆衛生の基本となる疫学を理解する。 ④地域で行われている保健活動を理解する。 ⑤環境が及ぼす健康問題を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	公衆衛生の概念・意義	・健康の概念 公衆衛生とは何か ・公衆衛生の変遷 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション	
2	地域保健	・母子保健 ・成人保健	
3		・高齢者保健	
4		・精神保健 ・難病・障がい支援	
5		・感染症対策	
6	学校保健	・学校保健	
7	産業保健	・産業保健 ・職業病 ・健康危機管理	
8	公衆衛生の活動対象	・健康に関する社会集団 ・看護職の公的責任	
9		・社会集団をとらえる視座 ・環境要因	
10	公衆衛生のしくみ	・法律と政策・施策 ・国と地方自治体の役割と看護職のはたらき	
11	環境と健康	・環境とは、地球規模の環境と健康、身の回りの環境と健康	
12	国際保健	・経済格差、健康格差	
13	公衆衛生の場での疫学	・疫学とは、集団として人々の健康をまもる	
14		・有病率と罹患率、平均寿命、平均余命、健康指標	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施。 ・筆記試験によって評価する。			
【テキスト・教科書】 ・公衆衛生がみえる【メディックメディア】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 関係法規			
【開講時期】 3年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
<p>【科目目標】</p> <p>①基礎知識ならびに保健医療関係法規を学ぶ。</p> <p>②看護職としての身分・業務・責任を理解し専門職としての自覚を持つことができる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。</p> <p>本科目は弁護士の資格を有する講師が講義を行う。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。</p>			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	法律の概念	・関係法規とは何か	
2	看護法	・保健師助産師看護師	
3	医事法	・医療法、医療観資格法、	
4		・保健医療福祉資格法	
5		・医療を支える法	
6	保健衛生法	・共通保健法、分別保健法(1)	
7		・共通保健法、分別保健法(2)	
8		・共通保健法、分別保健法(3)	
9	薬務法、環境衛生法	・薬事一般に関する法律、営業、環境整備	
10	社会保険法	・費用保障、年金、手当(1)	
11		・費用保障、年金、手当(2)	
12	福祉法	・福祉の基盤、児童、高齢分野、障害分野	
13	労働法と社会基盤整備	・労働法、社会基盤整備など	
14	環境法	・環境保全の基本法 ・公害防止の法 ・自然保護法	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
<p>【評価方法】</p> <p>・科目終了試験を実施</p> <p>・筆記試験によって評価する。</p>			
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令【医学書院】</p> <p>・適宜プリント配布</p>			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 医療概論			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①医療者として“いのち（生命）”とどう向き合うのか考えることができる。 ②医療全般の基盤となる考え方や知識を習得する。 ③医療の多様性と広がりを知り現代医療における意義・あり方・問題を理解する。			
【授業形態】 ・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	生命を尊ぶ心	・生命倫理とは 生の始まり	
2		・命をいつくしむ 生命の価値 QOL	
3	健やかに生きること	・健康とは 老いてこそ人生	
4	死を悼む心	・よい命の終わり 準備教育 グリーフケア ・安楽死、尊厳死（日本と諸外国の違い）	
5	おだやかに死ぬこと	・終末期を考える 緩和ケア 意思決定	
6	医学と医療	・医学の歴史 科学としての医学 ・エビデンスに基づく医療	
7		・インフォームド・コンセント	
8	現代の医療	・保健・医療・介護の社会環境 社会保障制度	
9	切れ目のないサポートの実現	・公衆衛生と保健	
10		・病院と診療所 ・医療従事者 ・地域医療連携 ・介護保険サービス ・地域包括ケア	
11		・救急医療・集中治療 チーム医療	
12	現代医療にかかわる諸問題	・医の倫理 ・医療安全 ・医薬品 ・最先端医療 ・医療情報	
13	医療と経済学	・公的医療保険の必要性 ・医療職の不足	
14	転換を迫られる医療政策	・国民医療費 ・急性期医療の集約化 ・医療者がもつべきコスト意識	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[1] 医学概論【医学書院】			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師（東洋医療学科教員）	
【科 目 名】 東洋医療			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
<p>【科目目標】</p> <p>①チーム医療の一員である鍼灸師を理解する。</p> <p>②多職種連携を行う上で、鍼灸の特性を理解する。</p> <p>③はり・きゅう・マッサージ・指圧・按摩などを通して臨床で活用できる技術を知る。</p> <p>④食事から、養生や健康管理について学ぶ。</p> <p>【授業形態】</p> <p>・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。</p>			
【回数】	【講義項目】		【備考】
1	鍼灸とは		
2	鍼体験		
3	灸体験		
4	薬膳について		
5	症状緩和としてのツボ押し(ベットサイドケア) 【演習】ハンドマッサージ		
6	症状緩和としてのツボ押し(ベットサイドケア) 【演習】フットマッサージ		
7	鍼灸の治効機序について		
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
<p>【評価方法】</p> <p>・科目終了試験を実施</p> <p>・レポートによって評価する</p>			
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>・配布資料</p>			

【区 分】 専門基礎分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 メンタルヘルス			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
<p>【科目目標】</p> <p>①自分自身のメンタルヘルスを健康に保てるように応用できる力を養い、メンタルヘルスに関する正しい知識を理解する</p> <p>【授業形態】</p> <p>・本科目は、科目の講義内容に関する実務または教育の経験を有する教員が講義、演習等を行う。</p> <p>【事前・事後学習】</p> <p>事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。</p>			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	心の健康	・今を生きるためのメンタルヘルス	
2	ストレス・マネジメント	・ストレスへの様々な対応法	
3	メンタルヘルスと心の働き	・ポジティブサイコロジー	
4	メンタルヘルスに影響するもの	・対人関係	
5		・生涯発達心理学からみて	
6		・脳や身体の動き	
7	メンタルヘルスとその周辺	・災害時など非日常な状態におけるメンタルヘルス	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
<p>【評価方法】</p> <p>・科目終了試験を実施</p> <p>・筆記試験によって評価する・終了試験</p>			
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>配布資料</p>			

専門分野

No.	科目名		学年	備考	
37	基礎看護学	看護の役割と機能	1年生		
38		看護場面に共通する看護技術Ⅰ	1年生		
39		看護場面に共通する看護技術Ⅱ	1年生		
40		看護場面に共通する看護技術Ⅲ	1年生		
41		日常生活を支える看護技術Ⅰ	1年生		
42		日常生活を支える看護技術Ⅱ	1年生		
43		日常生活を支える看護技術Ⅲ	1年生		
44		診療・検査・処置時の看護技術Ⅰ	2年生		
45		診療・検査・処置時の看護技術Ⅱ	1年生		
46		診療・検査・処置時の看護技術Ⅲ	2年生		
47		看護研究	2・3年生		
48		地域・在宅看護論	くらしの場と健康	1年生	
49			くらしを支える法と制度	2年生	
50			生活と看護	2年生	
51	くらしの場の医療的ケア		2年生		
52	地域でくらす療養者の看護		2年生		
53	生活の継続に必要な看護		2年生		
54	成人看護学	おとなのくらしと健康	1年生		
55		セルフコントロール支援	1年生		
56		生活再構築支援	2年生		
57		健康危機状態への支援	2年生		
58		緩和ケア	2年生		
59		周術期ケア	2年生		
60	老年看護学	高齢者のくらしと健康	1年生		
61		高齢者のくらしと看護	2年生		
62		高齢者の療養を支える看護	2年生		
63		高齢者のくらしと健康を支える看護	2年生		
64	小児看護学	こどものくらしと健康	1年生		
65		こどものくらしを支える援助	2年生		
66		こどもの療養を支える看護Ⅰ	2年生		
67		こどもの療養を支える看護Ⅱ	2年生		
68	母性看護学	命を育むための生と生殖の健康	1年生		
69		命を育む人の看護Ⅰ	2年生		
70		命を育む人の看護Ⅱ	2年生		
71		命を育む人の看護Ⅲ	2年生		
72	精神看護学	こころの健康	1年生		
73		こころの健康を支える法と制度	2年生		
74		こころの健康と看護Ⅰ	2年生		
75		こころの健康と看護Ⅱ	2年生		
76	看護の統合と実践	看護実践マネジメントⅠ	2年生		
77		看護実践マネジメントⅡ	2年生		
78		看護実践マネジメントⅢ	3年生		
79		災害看護学	2年生		

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護の役割と機能			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①看護の基本となる考え方を体系的に理解する。 ②保健・医療・福祉の広い視野で看護の役割と機能を理解する。 ③専門職業人としての倫理的態度を養う。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護の本質	・看護師とはなにか 看護と看護ケア	
2		・看護の変遷	
3		・看護職能団体による看護の定義	
4		・ナイチンゲールの看護の定義【看護覚え書】	
5		・ヘンダーソンの看護の定義【看護の基本となるもの】	
6	看護の対象である人間理解	・欲求をもつ存在	
7		・生活を営む存在	
8	健康と生活	・健康のとらえ方 健康のレベル	
9	看護における連携と協働	・看護師間の連携と協働 多職種間の連携と協働 ・チームでの活動	
10	看護職の資格と養成制度	・看護職の業務 資格に共通する規定	
11		・看護職の養成制度 看護職の就業場所	
12	看護における倫理	・倫理とは 職業倫理 看護倫理	
13		・看護職に求められる倫理【よくわかる看護職の倫理綱領】	
14		・事例で理解を深めよう	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・筆記試験と提出課題などを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論【医学書院】			
【サブテキスト】 ・看護覚え書【現代社】 ・看護の基本となるもの【日本看護協会出版会】 ・よくわかる看護職の倫理綱領【照林社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護場面に共通する看護技術 I			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】			
①看護の対象の安全を守る基本的な考え方を理解する。			
②医療事故と医療事故防止のための基礎的知識を理解する。			
③感染予防における看護師の責務と役割を認める。			
④感染予防の基本となるスタンダードプリコーションの考え方を理解する。			
⑤感染経路別対策の基本技術を習得する。			
【授業形態】			
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】			
①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習し、その都度習得する			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護技術の概念	・技術とは何か/看護技術の位置づけ、種類と分類 看・護技術を適切に実践するための要素	
2		・安全確保の基礎知識 (医療現場に発生しやすい事故と基本的な対策)	
3	安全管理	・感染予防の意義と原則 ・感染予防の基礎的知識 ・感染予防における看護師の責務と役割	
4	感染予防の基礎知識	・感染予防対策の基本 ・スタンダードプリコーション	
5	標準予防策	・感染経路別対策 (手洗い)	
6		・感染経路別対策 (個人防護具)	
7		【演習】 スタンダードプリコーション	
8		・感染経路別対策 (滅菌・消毒・洗浄)	
9		・感染経路別対策 (無菌操作)	
10		【学内演習】 無菌操作	
11		【学内演習】 無菌操作②	
12		・感染経路別対策 (感染性廃棄物)	
13		【学内事例演習】 ・感染予防技術演習①	
14		【学内事例演習】 ・感染予防技術演習②	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】			
・科目終了試験を実施			
・筆記試験によって評価する			
・試験と講義中で行う小テスト提出レポートなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】			
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 【医学書院】			
・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術 【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野 I		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護場面に共通する看護技術Ⅱ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①対人関係を成立・発展させるためのコミュニケーションの基本技術を習得する。 ②バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態）を観察するための基本的技術を習得する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護におけるコミュニケーション	・意図的コミュニケーション	
2		・「聴く」技術	
3		・「話す」技術・面接における「問診」の技術	
4		【演習】問診の技術	
5	健康状態のアセスメント	・看護における観察、観察の目的と方法	
6		・看護記録と報告の目的と方法、リフレクション	
7	バイタルサイン	・バイタルサインズの意義と測定の方法① 「体温測定」	
8		・バイタルサインズの意義と測定の方法② 「脈拍測定」・「呼吸測定」	
9		・バイタルサインズの意義と測定方法③ 「血圧測定①」	
10		・バイタルサインズの意義と測定方法④ 「血圧測定②」	
11		【演習】バイタルサインの測定の実際①	
12		バイタルサインの測定の実際②	
13		バイタルサインの測定の実際③	
14		バイタルサインの測定の実際④	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験【筆記試験】を実施する ・バイタルサイン測定の技術確認テストを実施する ・提出課題と授業態度も評価の対象とする			
【テキスト】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ【医学書院】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術【メディック メディア】 ・看護がみえる vol. ③ フィジカルアセスメント【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護場面に共通する看護技術Ⅲ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①看護の問題解決過程としての看護過程を理解する。 ②事例を用いて、看護過程を展開する。 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護の展開については授業時間以外でも自主的に取り組むこと。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護過程の概念	・問題解決思考、クリティカルシンキング、 ・看護過程の構成要素 ・ヘンダーソン看護論(1) (ヘンダーソンの4つの概念と看護の定義)	
2	ヘンダーソン看護論	・ヘンダーソン看護論(2) (基本的欲求、常在条件、病理的状态)	
3		・ヘンダーソン看護論(3) (情報の分類と分析・解釈)	
4		・ヘンダーソン看護論(4) (統合、看護計画立案)	
5	看護過程の展開の実際	【演習】 アセスメント①情報収集	
6		【演習】 アセスメント②情報の分析・解釈	
7		【演習】 アセスメント③情報の分析・解釈	
8		【演習】 アセスメント④統合、全体像	
9		【演習】 アセスメント発表	
10		【演習】 看護問題の抽出と目標設定	
11		【演習】 看護計画の立案①	
12		【演習】 看護計画の立案②	
13		【演習】 看護計画発表	
14	看護記録の目的・機能と管理	看護記録の意義・必要性、看護記録の構成と種類 看護記録・管理における留意点	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践【ヌーベルヒロカワ】 ・看護がみえる vol. ④ 看護過程の展開【メディック メディア】 【サブテキスト】 ・看護の基本となるもの【日本看護協会出版会】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 日常生活を支える看護技術 I			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①活動と休息の意義を理解し、看護の対象に適した看護援助の基本技術を習得する。 ②看護の対象の衣生活を支える基本的な援助技術を習得する。 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	環境調整の援助	・療養生活の環境（病室・病床環境）	
2		・快適な生活環境と援助（ベッドの高さ、音、光、臭い）	
3		・病床とベッド周囲の環境整備	
4		・リネンの取り扱い	
5		【演習】リネンの取り扱いと病床環境整備(1) （角の作り方、しわの伸ばし方）	
6		【演習】リネンの取り扱いと病床環境の整備（2） （角の作り方、しわの伸ばし方）	
7	基本的活動の援助	・姿勢と体位（良い姿勢、ボディメカニクス、体位）	
8	移動の援助	・移動の援助（歩行・移乗・移送）	
9		【演習】車いす移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送(1) （水平移動・体位変換含む）	
10		【演習】車いす移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送(2) （水平移動・体位変換含む）	
11	休息・安楽の援助	・ポジショニング	
12		・髻法、手浴・足浴、リラクゼーション	
13		【演習】安楽への援助【メモ：この科目の統合】	
14		【演習】安楽への援助	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・試験と講義中で行う小テスト提出レポートなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 【医学書院】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術【メディック メディア】 ・看護がみえる vol. ② 臨床看護技術【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 日常生活を支える看護技術Ⅱ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解する。 ②臥床患者の基本的な寝衣交換の看護技術を習得する。 ③臥床患者の基本的な全身清拭と洗髪 of 看護技術を習得する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	清潔・衣生活の意義	人間にとっての清潔・衣生活の基礎知識	
2		清潔援助を実施するための基礎知識	
3		病床での衣生活の援助方法	
4	【学内演習】	【寝衣交換の実際①】	
5		【寝衣交換の実際②】	
6	様々な清潔援助の方法	入浴、シャワー浴、特殊浴の援助方法	
7		全身清拭の援助方法	
8		洗髪 of 援助方法	
9	【学内演習】	【湯の温度とタオルの温度変化】	
10	【学内演習】	【臥床患者の全身清拭の実際①】	
11		【臥床患者の全身清拭の実際②】	
12	【学内演習】	【臥床患者の洗髪 of 実際①】	
13		【臥床患者の洗髪 of 実際②】	
14	リフレクション	技術演習 of リフレクション・まとめ	
15	科目終了試験、および、試験 of 解説と講義・演習 of 振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験（筆記試験）を実施する。 ・技術演習リフレクションシート of 内容と提出状況及び授業態度も評価対象とする。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ【医学書院】 ・看護がみえる vol.① 基礎看護技術【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 日常生活を支える看護技術Ⅲ			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①基本的な欲求である食事と排泄の意義を理解する。 ②看護の対象の食事を支える基本的な看護技術援助を習得する。 ③看護の対象の排泄を支える基本的な看護援助技術を習得する。 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う。 【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については演習において練習し、その都度習得するよう努める			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	食事・栄養の援助	・食事と栄養の意義	
2		・健康な食生活と食事摂取基準	
3		・食事・栄養のアセスメント	
4		・食生活の基本的援助（経口栄養、非経口栄養） 【演習】食事援助の実際①（口腔ケア含む）	
5	排泄の援助	【演習】食事援助の実際②	
6		・排泄の意義と排泄のメカニズム（排便・排尿）	
7		・排泄のアセスメントと基本的援助①	
8		・排泄のアセスメントと基本的援助②	
9		・排泄の基本的援助の実際	
10		【演習】排泄援助の実際(1)：浣腸（便器のあて方を含む）	
11		【演習】排泄援助の実際(2)：浣腸（便器のあて方を含む）	
12		【演習】陰部洗浄(1)	
13		【演習】陰部洗浄(2)	
14		【演習】排泄援助の実際(1)：導尿（尿器のあて方を含む）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り	【演習】排泄援助の実際(2)：導尿（尿器のあて方を含む）	
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験【筆記試験】を実施する。 ・技術演習振り返りシートの内容と、講義・演習への参加態度も評価の対象とする。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ【医学書院】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術【メディックメディア】 ・看護がみえる vol. ② 臨床看護技術【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 診療・検査・処置時の看護技術 I			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①薬物療法における看護師の役割を理解する ②与薬法を安全かつ正確に実施する知識を習得する。 ③注射法を安全かつ正確に実施する技術を習得する。 ④輸血における看護師の役割を理解し、安全かつ正確に実施する知識を習得する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	薬物療法	・薬物療法とは ・薬物療法における看護師の役割、与薬時の事故防止	
2	与薬法	・経口与薬法・口腔与薬法・直腸内与薬法・外用薬与薬法・吸入法の実際と留意点	
3	注射法①	注射法とは① 皮下注射法の実際と留意点	
4	【学内演習】	【演習】皮下注射法の準備	
5		【演習】皮下注射法の実際	
6	注射法②	注射法とは② 筋肉内注射法の実際と留意点	
7	【学内演習】	【演習】筋肉内注射法の準備	
8		【演習】筋肉内注射法の実際	
9	静脈内注射・点滴静脈内注射法①	静脈内注射法・点滴静脈内注射の実際と留意点	
10	【学内演習】	【演習】点滴静脈内注射法の準備	
11		【演習】点滴静脈内注射法の実際	
12	静脈内注射・点滴静脈内注射法②	中心静脈カテーテル留置の実際と留意点	
13	輸血	輸血の実際と留意点	
14	リフレクション	本科目のリフレクション・まとめ	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験（筆記試験）を実施 ・技術演習のリフレクションシートの提出状況や授業の参加態度も評価対象とする。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 【医学書院】			
【サブテキスト】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術 【メディック メディア】 ・看護がみえる vol. ② 臨床看護技術 【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員		
【科 目 名】 診療・検査・処置時の看護技術Ⅱ				
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ		
【科目目標】				
①対象の疾患による症状を観察するために必要なフィジカルイグザミネーション（問診、視診、触診、聴診、打診）の基本となる技術を習得する。				
②フィジカルイグザミネーションで観察した情報が正常なのか異常なのか判断（アセスメント）する。				
③対象の疾患による症状の観察項目を把握し、フィジカルイグザミネーション（問診、視診、触診、聴診、打診）を活用して観察ができる。				
④救急看護における看護師の役割を理解し、一次救命処置を実践する。				
【授業形態】				
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。				
【事前・事後学習】				
①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。				
②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する。				
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】	
1	・看護における「観察」とは ・フィジカルイグザミネーションとは	「問診」・「視診」・「触診」・「聴診」・「打診」による観察の技術 フィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメント、セルフアセスメントとは		
2	フィジカルイグザミネーションの方法	①「呼吸音の聴取」 ②「意識レベル・対光反射の測定」		
3		③「腸蠕動音の聴取」 ④「身体計測」の方法		
4		⑤「心音の聴取」		
5		⑥「筋・骨格系の測定」		
6		【技術演習】	【基本的なフィジカルイグザミネーションの実際①】	
7			【基本的なフィジカルイグザミネーションの実際②】	
8		基礎Ⅰb 実習の受け持ち患者の症状の観察のための調べ学習		
9	【技術演習】	【受け持ち患者の症状の観察の実際①】		
10		【受け持ち患者の症状の観察の実際②】		
11	リフレクション	1～11 コマ目のリフレクション		
12	救急看護	・救急看護における看護師の役割と機能		
13		【演習】心肺蘇生の目的と一次救命処置①		
14		【演習】心肺蘇生の目的と一次救命処置②		
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り			
【評価方法】				
・15回目に科目終了試験【筆記試験】を実施する				
・技術演習振り返りシート及びリフレクションシートの内容と授業態度も評価の対象とする				
【テキスト】				
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ【医学書院】				
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ【医学書院】				
・看護がみえる vol. ③ フィジカルアセスメント【メディックメディア】				
【サブテキスト】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術【メディックメディア】				

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 診療・検査・処置時の看護技術Ⅲ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①主要な症状を引き起こすメカニズムを理解し、その症状に対する基本的な援助技術を習得する。 ②主な検査に伴う基本的な看護技術を習得する。 ③採血の目的を理解し、基本的な採血技術を習得する。 ④主要な医療機器の原理と取り扱いの基本を理解する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。			
【事前・事後学習】 ①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。 ②看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	主要な症状を示す対象者への援助	・呼吸困難のメカニズムと日常生活に及ぼす影響	
2		・循環障害のメカニズムと日常生活に及ぼす影響	
3	医療機器の原理と実際	・医療機器の目的と種類、取り扱い上の基本的事項	
4		【演習】酸素吸入、吸引、 輸液ポンプとシリンジポンプの取り扱い	
5		【演習】酸素吸入、吸引、 輸液ポンプとシリンジポンプの取り扱い	
6	主な検査と検査に伴う看護技術	・検体検査と生体検査、検体の取り扱い	
7		・採血（静脈血・動脈血）	
8		【演習】採血①	
9		【演習】採血②	
10	【演習】事例展開	・症状をもつ患者のアセスメント	
11		・症状をもつ患者の看護計画立案	
12		・症状をもつ患者の看護実践	
13		・症状をもつ患者の看護評価	
14		・症状をもつ患者の看護修正	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義・演習の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・試験と講義中で行う小テスト・提出レポートなどを総合して評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】 ・看護がみえる③ フィジカルアセスメント【メディック メディア】			
【サブテキスト】 ・看護がみえる vol. ① 基礎看護技術【メディック メディア】 ・看護がみえる vol. ② 臨床看護技術【メディック メディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護研究			
【開講時期】 3年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】			
①看護研究の意義とそのプロセスを理解する			
②看護研究の研究デザインの設計と研究計画書作成の方法を理解する。			
③看護研究を実践するための研究力を活かす方法を知る。			
④ケースレポートとしてまとめ、発表する。			
【授業形態】			
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】			
①事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習する。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護研究とは	・看護研究の意義と目的、種類と特徴（量的・質的）	
2		・研究方法の特徴 研究の設計、研究デザイン	
3	研究のプロセス	・研究のプロセス（文献の活用・文献の読み方、研究テーマの設定、データ収集方法 データの分析）	
4		・研究計画、倫理的配慮	
5	ケーススタディ実践	・ケーススタディの進め方	
6		【演習】 情報の整理とテーマの設定	
7		【演習】 ケーススタディの作成	
8		【発表】	
【評価方法】			
・ケーススタディの発表（評価表に基づく） ・作成過程は当校の「ケーススタディの手引き」に従う			
【テキスト・教科書】			
・ひとりで学べる看護研究【照林社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 暮らしの場と健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①生活の場と生活する人を理解する。 ②くらしと健康の相互性を理解する。 ③様々な生活の場があることを理解する。 ④地域で生活する為に必要なシステムを理解する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく。			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	対象者の理解	対象者の特徴	
2		家族の理解	
3		家族への援助	
4		家族への援助の実際	
5	生活を支えるシステム	様々な生活の場	
6		地域包括ケアシステム	
7		在宅看護	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実際【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 暮らしを支える法と制度			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①在宅看護に関する法を理解する。 ②法・制度にそった看護活動を理解する。 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	在宅看護に関する法と制度	医療保険・後期高齢者	
2		介護保険	
3		障害者総合支援 難病法 医療法 小児に関する法・制度	
4		権利擁護 虐待防止 成人後見制 個人情報保護 守秘義務 本人・家族の自己決定の支援	
5	在宅看護の理解	訪問看護ステーション 訪問看護	
6		ケアマネジャー 関係職種の理解	
7		継続看護 多職種連携 退院支援	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 生活と看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①地域で生活する対象とその家族に必要な技術援助を理解することができる。 ②在宅看護援助の基本が説明できる 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	生活の支援	環境 呼吸	
2		食事	
3		排泄	
4		清潔	
5		移乗 移動	
6		【演習】 オムツ交換	
7		【演習】 食事の工夫・転倒予防の工夫	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 暮らしの場の医療的ケア			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①在宅看護で必要な医療的ケアの方法を理解する ②医療的ケアが必要な療養者や家族への援助を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	療養者の暮らしに合わせた看護技術	与薬管理	
2		経管栄養の管理 中心静脈栄養の管理	
3		導尿・膀胱留置カテーテル・ストーマの管理	外部講師
4		褥瘡の予防	
5		在宅酸素療法（HOT）の援助	
6		人工呼吸装着時の看護 気管カニューレの管理	
7		【演習】 経管栄養・膀胱留置カテーテル・気管切開	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 地域でくらす療養者の看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①療養者とその療養にかかわる人々に応じた援助を理解する。 ②状況に応じた援助を理解する。 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	療養者のくらしに合わせた援助	認知症の人の援助	
2		機能障害を持つ人の援助	
3		難病を持つ人の援助	
4		知的・精神障害者の援助	
5		小児療養者の援助	
6		終末期の看護の実際援助 本人・家族の意思の尊重	
7	状況的危機に合わせた看護	感染予防、 緊急時・災害時の看護援助	
8	科目終了試験		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などで総合的に判断する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 生活の継続に必要な看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①訪問看護の活動内容を理解する ②地域で療養する対象と家族に必要な看護技術を理解する			
【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	訪問看護の理解	訪問時のマナー	
2		訪問の目的、看護目標の設定、計画の立て方	
3		【演習1】 模擬訪問看護ステーションの立ち上げ	
4		模擬訪問看護ステーションの立ち上げ	
5		発表と振り返り	
6	療養者・家族に必要な援助	【演習2】 療養者・家族に合わせた看護の展開	
7		” (アセスメント・計画)	
8		” (具体策立案)	
9		” (実践準備)	
10		援助内容の発表と振り返り (アセスメント・計画)	
11		援助内容の修正 (具体策立案)	
12		” (実践準備)	
13		援助内容の実際 発表と振り返り	
14		援助の評価・まとめ	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤【医学書院】 ・系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践【医学書院】			
【サブテキスト】 ・写真でわかる訪問看護アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 おとなのくらしと健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①人間のライフサイクルに照らし合わせて、成人期にある人の身体的、精神的、社会的な特徴を理解する ②成人期にある人の健康と健康障害について理解する ③成人看護に活用できる理論について理解する 【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	成人看護の対象である成人とは	成人の定義 成人期にある人の理解、ライフサイクル	
2		成長・発達過程からみた成人の特徴（青年期・壮年期・向老期）	
3	成人期にある人を取り巻く社会環境と成人の生活	働くことと生活 家族との関係	
4	成人期にある人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	保健統計からみた成人の健康の動向	
5		成人期に特徴的な健康問題	
6	健康と健康障害	健康レベルから見た成人看護の特徴	
7	看護理論	成人看護に活用できる理論	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・欠席や遅刻、授業への参加態度も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論・成人保健【メジカルフレンド社】 【サブテキスト】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 セルフコントロール支援			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①慢性疾患がある患者とその家族の特徴を理解する ②慢性疾患がある患者とその家族への看護を理解する ③慢性疾患がある患者とその家族に必要なセルフコントロールの支援を理解する。			
【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	内部環境調節機能障害のある患者の看護1	糖質、脂質、尿酸代謝障害のアセスメント	
2	腎機能障害のある患者の看護	腎機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法	
3		透析療法を受ける患者の看護①	
4		透析療法を受ける患者の看護②	
5	呼吸機能障害のある患者の看護	呼吸機能障害のアセスメント	
6		慢性閉塞性肺疾患患者への看護①	
7		慢性閉塞性肺疾患患者への看護②	
8	内部環境調節機能障害のある患者の看護2	糖尿病をコントロールする生活援助①	
9		糖尿病をコントロールする生活援助②	
10	事例検討	糖尿病のある対象の看護 情報の分析	
11		糖尿病のある対象の看護 病期の判断理由	
12		糖尿病のある対象の看護 看護の方向性	
13		糖尿病のある対象の看護 看護問題の抽出	
14		糖尿病のある対象の看護 まとめ	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・授業への参加態度も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器【医学書院】 ・看護がみえる Vol. ③ フィジカルアセスメント【メディックメディア】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器【医学書院】			
【サブテキスト】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 生活再構築支援			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】			
①リハビリテーションの概念とその実際を理解する			
②成人期にある人のリハビリテーション期の特徴を理解する			
③成人期にある人とその家族へのリハビリテーション期の看護を理解する			
④リハビリテーションを必要とする対象の看護過程を展開する			
【授業者】			
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う			
【授業形態】			
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの歴史、定義、理念	外部講師
2		疾病・障害、生活機能の分類、多職種連携	外部講師
3	運動器系の障害とリハビリテーション	運動器疾患に関連するリハビリテーション(1)	外部講師
4		運動器疾患に関連するリハビリテーション(2)	外部講師
5	中枢神経系の障害とリハビリテーション	中枢神経疾患に関連するリハビリテーション(1)	外部講師
6		中枢神経疾患に関連するリハビリテーション(2)	外部講師
7	運動機能障害のある患者の看護	運動機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法(1)	
8		運動機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法(2)	
9	脊髄神経機能障害のある患者の看護	脊髄神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法	
10	事例検討	脊髄損傷のある対象の看護（危機理論の活用）(1)	
11		脊髄損傷のある対象の看護（危機理論の活用）(2)	
12		脊髄損傷のある対象の看護（危機理論の活用）(3)	
13		脊髄損傷のある対象の看護（危機理論の活用）(4)	
14		脊髄損傷のある対象の看護（危機理論の活用）(5)	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】			
・科目終了試験を実施			
・筆記試験によって評価する			
・健康障害（病態生理）については、自己学習して参加することを期待します			
【テキスト・教科書】			
・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器【医学書院】			
・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護【医学書院】			
【サブテキスト】			
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 健康危機状態への支援			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①急性期にある患者と家族の特徴を理解する ②急性期にある患者と家族への看護を理解する 【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	急性期にある患者と家族の特徴と看護	急性期にある患者の緊急性と重症度のアセスメント	
2		危機的状態への精神的援助	
3	クリティカルケア	外傷・熱傷（小児、成人、高齢者）・中毒患者の看護(1)	
4		外傷・熱傷（小児、成人、高齢者）・中毒患者の看護(2)	
5		人工呼吸器装着中の看護	
6	循環機能障害のある患者の看護	循環機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法 (主な症状と特徴と看護、循環機能障害と日常生活)	
7		虚血性心疾患患者の看護 (狭心症・心筋梗塞のある患者の看護/心臓リハビリ/自己管理指導)	
8	事例検討	虚血性心疾患のある対象の看護(1)	
9		虚血性心疾患のある対象の看護(2)	
10		虚血性心疾患のある対象の看護(3)	
11	脳・神経機能障害のある患者の看護	脳・神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法(1) (生命維持活動調節機能の原因と程度)	
12		脳・神経機能障害のある患者のアセスメント及び援助方法(2) (言語・感覚機能障害の原因と程度)	
13		クモ膜下出血患者の看護（急性～回復への移行）	外部講師
14		脳梗塞患者の看護（急性～回復への移行）	外部講師
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経【医学書院】 【サブテキスト】 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 緩和ケア			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 治療及び回復が困難な成人期にある人の特徴とその看護を理解する ・ 悪性疾患により長い治療経過にある対象の特徴とその看護を理解する ・ 終末期の成人期にある人とその家族の特徴と看護を理解する ・ 生と死をめぐる倫理的課題について他者と意見を共有する 			
【授業者】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	長い治療経過にある人の特徴と援助方法	緩和ケアの目的と特徴 エンド・オブ・ライフケア	
2	終末期にある人の特徴と看護	終末期にある人の全人的苦痛の理解	
3		終末期における看護師の役割と機能	
4		終末期にある患者の痛み 痛みのメカニズム	外部講師
5		終末期にある患者の痛みに関する薬物管理	外部講師
6		終末期にある患者の痛みに対する看護	外部講師
7		終末期における倦怠感・浮腫・呼吸困難のケア	
8	がん治療をうける人の看護	化学療法を受ける患者の看護(1) 看護の特徴	外部講師
9		化学療法を受ける患者の看護(2) 副作用と対策	外部講師
10		放射線療法を受ける患者の看護	
11	終末期にある人の家族への看護	悲嘆へのケア	
12		終末期におけるコミュニケーション	
13	臨死期の看護	グリーフケア、身体的・精神的ケア、死後の処置	
14	緩和ケアと生命倫理	生と死をめぐる倫理的課題	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する ・ 出席・受講態度・提出物などで総合的に判断する 			
【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア【メディカ出版】 			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員		
【科 目 名】 周術期ケア				
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ		
【科目目標】				
①身体侵襲をうける患者の特徴と看護を理解する				
②周術期にある患者と家族の特徴を理解する				
③周術期にある患者と家族への看護を理解する				
【授業者】				
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う				
【事前・事後学習】				
事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく				
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】	
1	身体侵襲を受けた患者への援助方法	ボディイメージの変化の受容過程とその看護		
2	手術療法をめぐる問題と看護の役割	1) 手術療法とは 2) 手術患者の特徴と問題 3) 患者と家族への心理的援助		
3	周術期にある患者と家族への看護	手術前の看護 1) 身体アセスメント 2) 術前訓練		
4		3) 術前処置 4) 術前訪問		
5		手術中の看護 1) 入室から退室までの援助 2) 手術室看護師の役割		
6		手術後の看護 1) 術直後の看護 2) 早期離床 3) 創傷ケア・ドレーン管理		
7		4) 術後合併症		
8		機能障害に対する援助と指導 【事例検討】	胃切除術を受ける患者の看護 術前オリエンテーション	
9			術中 気管挿管介助、体位固定	
10	術後管理 術後観察、疼痛コントロール			
11	術後合併症予防 援助計画作成			
12	ロールプレイ、リフレクション			
13	退院指導 指導計画作成			
14	ロールプレイ、リフレクション			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り			
【評価方法】				
・科目終了試験を実施				
・筆記試験によって評価する				
【テキスト・教科書】				
・ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護【メディカ出版】				
【サブテキスト】				
・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論【医学書院】				

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 高齢者のくらしと健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①高齢者の身体的、精神的、社会的側面や健康について理解する ②高齢者を取り巻く倫理的課題について理解する ③高齢者の保健医療福祉の動向を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	高齢者の理解	加齢に伴う変化 ①身体・心理・社会 ②健康のとらえ方	
2		高齢社会の現状と保健医療福祉の課題	
3		高齢者体験 (演習)	
4	高齢者のいる家族	家族の発達課題と機能・ニーズ	
5	高齢者の人権と倫理的問題	高齢者に対する差別・高齢者虐待・身体拘束	
6		高齢者のQOLと権利擁護・意思決定支援	
7	保健医療福祉の動向	保健医療福祉制度(制度と社会資源)	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に判断する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 高齢者のくらしと看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①高齢者の加齢による変化を理解する ②高齢者によくみられる身体症状について理解する ③高齢者の生活機能を整えるための援助の方法を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	ヘルスアセスメントの基本	加齢に伴う身体・認知機能の変化	
2	身体症状とアセスメント	【グループワーク】 発熱・痛み・かゆみ・脱水嘔吐・浮腫・倦怠感	
3		発表	
4		褥瘡・スキンケアの看護と実際	外来講師
5	高齢者の生活機能を整える看護	基本動作、廃用症候群	
6		食事・食生活	
7		排泄	
8		清潔	
9		生活リズムと休息	
10		コミュニケーション	
11		セクシュアリティ、社会参加	
12	高齢者の生活体験	【演習】 高齢者の生活体験 (車いすでの生活、おむつ体験、食事など)	
13			
14	高齢者の支援	まとめ	
15	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に判断する。 			
【テキスト・教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論【医学書院】 			

【区 分】 専門分野	【担当教員】 専任教員		
【科 目 名】 高齢者の療養を支える看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①検査・治療をうける高齢者の看護について理解する ②認知機能障害を持つ高齢者の看護について理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく。			
【回数】	【講義項目】	【内容】	【備考】
1	治療を必要とする高齢者の看護	様々な健康状態や受療状況に応じた看護	
2		検査時の看護	
3		薬物療法時の看護	
4		手術療法時の看護	
5	認知機能障害を持つ高齢者の看護	認知機能障害のある患者の看護①（症状とケア）	
6		認知機能障害のある患者の看護② （コミュニケーション方法）	
7		【演習】 認知機能障害のある患者の援助	
8	科目終了試験、および試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する ・8回目に科目終了試験を実施し評価する。			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 高齢者のくらしと健康を支える看護			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①生活機能の障害をもった対象に対する看護過程を展開する ②高齢者のくらしを地域へつなげる視点を持ちながら、入院から退院までの看護過程を展開する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	生活機能に着目した看護の展開	目標志向型思考とは	
2		退院支援・退院調整とは	
3	(事例展開) 入院	情報収集・整理	
4		アセスメント①	
5		アセスメント②	
6		アセスメントの発表・修正	
7		全体像	
8		全体像	
9		全体像の発表・修正	
10		看護計画立案	
11		【演習】 退院前カンファレンス	
12		【演習】 退院前カンファレンス	
13	退院	看護計画の評価・修正	
14		事例展開の振り返り	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などを総合的に評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学【医学書院】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾病論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 こどものくらしと健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①小児看護の対象と役割を理解する ②こどもの成長発達的一般性・共通性・発達の特徴を理解する ③こどもの発達段階各期の成長・発達の特徴と健康問題を理解する ④こどもと家族を取り巻く社会の変化と小児看護において守られるべき権利を理解する ⑤こどもと家族を取り巻く社会資源の活用を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う。 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	小児看護の特徴	小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児看護の変遷	
2	こどもの成長・発達	成長・発達とは 一般的原則 影響因子	
3	こどもの成長・発達の評価 小児各期の成長・発達の特徴	成長の評価、発達の評価、発達検査、養育環境	
4		小児各期における成長・発達の特徴と起こりやすい健康障害	
5		乳児期・幼児期・学童期・思春期	
6	こどもの権利	こどもの権利に関する法律 治療における意思決定	
7	こどもと家族を取り巻く社会と資源の活用	母子保健施策の活用医療費支援 小児看護の課題	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・筆記試験によって評価する ・授業・GWへの参加態度、提示された課題の提出状況及び内容も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる 小児看護技術アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 こどものくらしを支える援助			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】			
①こどもの健康な成長発達と日常生活を支援するための基礎的知識や技術を理解する			
②こどもや家族と援助関係を形成するために必要な技術を理解する			
③こどもを対象とした看護技術を理解する			
【授業形態】			
本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義・演習を行う			
【事前・事後学習】			
・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
・看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	発達に応じた日常生活の援助	基本的な生活習慣自立への援助 (食事・排泄・清潔・衣類・移動・睡眠)	
2		基本的な生活習慣自立への援助 (健康教育・生活指導)	
3	こどもの安全で快適な環境	安全で快適な環境、安全教育	
4	こどもの遊びと学習	発達段階における遊びと学習の特徴	
5	病気に対するこどもの理解と説明	病気に対するこどもの理解の特徴 こどもの痛みの受け止め方 プレパレーション、ディストラクション	
6	こどもへの健康教育	発達段階にあわせたこどもと家族への健康教育	
7		発達段階にあわせたこどもと家族への健康教育	
8	こどものアセスメント技術	バイタルサイン、身体計測【演習含む】	
9	検査・処置を受けるこどもの看護	検査・処置を受ける小児と家族への支援	
10		検体採取(採血、採尿、腰椎穿刺)と抑制【演習含む】	
11	こどもの健康を守る看護と社会資源	予防接種	
12	こどもと安全な医療の場	小児外来・小児病棟の特徴と安全管理 (事故防止・感染予防)	
13		活動制限・感染対策上の隔離が必要な小児と家族への看護	
14		【演習】安全な入院環境の援助	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】			
・15回目に科目終了試験を実施			
・筆記試験によって評価する			
・授業・GWへの参加態度、提示された課題の提出状況及び内容も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】			
・系統看護学講座 専門 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論【医学書院】			
・系統看護学講座 専門 小児看護学[2] 小児臨床看護各論【医学書院】			
・写真でわかる 小児看護技術アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 こどもの療養を支える看護Ⅰ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①疾病によるこどもの身体的・心理的・社会的変化を理解する ②こどもが疾病をもつことによる家族への影響を理解する ③医療の場面や病期に応じたこどもと家族の看護を理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	場面に応じたこどもと家族の看護①外来	外来の特徴と看護の役割 虐待を受けているこどもと家族への看護 救急救命処置が必要なこどもと家族の看護（誤飲）	
2	場面に応じたこどもと家族の看護②入院	入院環境と看護の役割	
3	病期に応じたこどもと家族の看護 「急性期」	急性期の特徴 こどもの尊厳や人間性への配慮 家族のこどもの状況の受け止めと治療の意思決定の援助	
4	病期に応じたこどもと家族の看護 「周術期」	こどもの手術の特徴 手術前後の身体状態のアセスメント 手術を受けるこどもと家族の安全・安楽の援助	
5	病期に応じたこどもと家族の看護 「終末期」	こどもの死の捉え方、いのちの教育 終末期にあるこどもの心身の状態と緩和ケア こどもの死を看取る家族の反応と援助	
6	病期に応じたこどもと家族の看護 「慢性期」	病気によるこどもと家族の生活の変化 こどもの発達に応じたセルフケア能力の獲得・自立支援 学習支援と復学支援	
7		障害のあるこどもと家族の看護（先天異常・心身障害） 医療的ケアを必要として退院するこどもと家族への援助	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論【医学書院】 ・系統看護学講座 専門 小児看護学[2] 小児臨床看護各論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる 小児看護技術アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 こどもの療養を支える看護Ⅱ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①こどもによくみられる疾患の基礎的知識を理解する ②健康が障害されたこどもを対象とした看護技術を理解する ③事例を通して、成長発達段階と健康レベルを踏まえたこどもと家族の看護を展開する 【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく ・看護技術については授業中や課外で繰り返し練習する			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	こどもによくみられる疾患	肺炎・気管支炎・気管支喘息	外部講師
2		川崎病・ファロー四徴症	外部講師
3		紫斑病・ネフローゼ症候群	外部講師
4	こどもの看護技術演習【演習含む】	与薬・輸液管理、吸入	
5	看護過程の展開 「喘息のこどもと家族」 【グループワーク・演習含む】	情報収集とアセスメント	
6			
7			
8			
9		看護問題の明確化	
10		看護計画の立案	
11			
12		看護計画の実施・評価【ロールプレイ】	
13			
14			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・授業・GWへの参加態度、提示された課題の提出状況及び内容も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・系統看護学講座 専門 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論【医学書院】 ・系統看護学講座 専門 小児看護学[2] 小児臨床看護各論【医学書院】 【サブテキスト】 ・写真でわかる 小児看護技術アドバンス【インターメディカ】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 命を育むための生と生殖の健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①リプロダクティブ・ヘルスの概要を理解する。 ②プレコンセプションケアを理解する。			
【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1		リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義 出生前からのリプロダクティブ・ヘルスケア 性と生殖に関する健康/権利、	
2	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 セクシュアリティの概要	親性、性（セクシャリティ、セックス、ジェンダー、LGBTQなど）ヘルスプロモーション 性行動、性反応（セクシャリティ）	
3			
4			
5	リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向	出生、新生児・乳児・周産期死亡に関する統計 死産・流産、人工妊娠中絶に関する統計	
6	リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理	母性看護における倫理、人工妊娠中絶と倫理	
7		生殖補助医療と倫理的課題、出生前診断	
8	リプロダクティブ・ヘルスに関する法や施策と支援	出生、死亡、日本の母子保健統計の動向 健やか親子21	
9	リプロダクティブ・ヘルスに関する法・施策と支援	性暴力を受けた人に対する看護、児童虐待と看護と施策、母性看護に関する主な法律 女性の就労に関する法律	
10		妊婦の就労、職場復帰、男女共同参画とワークライフバランス、労働基準法	
11	ウィメンズヘルスの基本的な理解	思春期・成熟期の健康の課題	
12		更年期・老年期の健康の課題	
13		ホルモンの変化と検査・治療など	
14	家族のサポートと地域サポートシステムの理解	健康教育・保健指導/家族への支援 母性の世代間伝達・次世代に向けて	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価す			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 母性看護学① 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護【メジカルフレンド社】 ・病気がみえる vol. ⑩ 産科【メディックメディア】			
【サブテキスト】 ・病気がみえる vol. ⑨ 婦人科・乳腺外科【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 命を育む人の看護Ⅰ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①妊娠経過と、妊婦とその家族への看護について理解する ②分娩経過と、産婦とその家族への看護について理解する 【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	妊娠経過と妊婦・胎児への看護	妊婦と家族の健康状態を保持・増進するための看護①	
2		妊婦と家族の健康状態を保持・増進するための看護②	
3	家族役割の再調整への支援	家族間役割の変化・夫婦関係の再調整への支援	
4	妊娠期の異常・合併症と看護	ハイリスク妊娠時の対象への看護	
5	分娩経過と産婦への看護	分娩進行中の対象への看護①	
6		分娩進行中の対象への看護②	
7	分娩期における異常時の看護	産道、娩出力、胎児および付属物の異常時の看護 胎児機能不全 ・分娩損傷時の看護 分娩時異常出血 ・産科処置と産科手術時の看護	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 以下を総合して評価する。 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・欠席や遅刻、授業への参加態度も評価の対象とする			
【テキスト・教科書】 ・母性看護学Ⅱ 周産期各論【医歯薬出版】 ・根拠と事故防止からみた母性看護技術【医学書院】 ・病気がみえる vol. ⑩ 産科【メディックメディア】 【サブテキスト】 ・ウェルネスの視点に基づく母性看護過程【医歯薬出版】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 命を育む人の看護Ⅱ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①正常な産褥経過を理解する。 ②褥婦の健康と生活のアセスメントが出来る ③褥婦と家族への看護を理解する。 ④産褥期の健康問題に対する看護を理解する。 ⑤早期新生児の特徴と生理的変化を理解できる。 ⑥早期新生児の健康とアセスメントから、健康問題に対する看護が理解できる。 ⑦早期新生児への家族への看護を理解する。 【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	正常な産褥経過	産褥の定義、産褥期の身体的特徴（全身の変化、生殖器、乳房の変化）、褥婦と家族の心理的・社会的変化	
2	産褥の健康と生活のアセスメント	褥婦の全身のアセスメント、母乳育児の状況 産褥のセルフケアの不足に対する看護	
3	褥婦と家族への看護	産褥復古に関する支援、母乳育児への支援、バースレビュー	
4		親子の愛着形成、育児技術獲得への支援、家族の再構築	
5	産褥期の健康問題に対する看護	子宮復古不全、乳腺炎、産後精神障害、泌尿器感染	
6		帝王切開	
7	産褥期の観察・援助技術	産褥復古支援技術、母乳育児支援技術	
8	早期新生児の特徴と生理的変化	母乳育児新生児の定義と特徴と生理的変化、新生児の反射、感覚機能、体温、ビリルビン代謝と生理的黄疸、皮膚	
9		・新生児の循環、免疫、呼吸、消化と吸収、水電解質代謝と腎機能、生理的体重減少、姿勢、哺乳力、排尿・排便	
10	早期新生児の健康と発育にアセスメント	・出生直後の評価（アプガースコア）、成熟度の評価、奇形・バイタルサイン、奇形の評価、新生児マススクリーニング	
11		・子宮外生活への適応状態のアセスメント	
12	早期新生児と家族への看護	・気道の開通と保温、全身計測、観察、清潔、哺乳、事故防止・保育環境、感染予防	
13		・健康問題に対する看護（低出生体重児、高ビリルビン血症など）	
14	新生児の異常	・早産児、低出生体重児、新生児一過性多呼吸、高ビリルビン血症、低血糖症、新生児ビタミンK欠乏症、先天異常 ・死産児、障害がある新生児を持つ親への援助	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・母性看護学Ⅱ 周産期各論【医歯薬出版】 ・病気がみえる vol.⑩ 産科【メディックメディア】 ・根拠と事故防止からみた母性看護技術【医学書院】			
【サブテキスト】 ・ウェルネスの視点に基づく母性看護過程【医歯薬出版】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 命を育む人の看護Ⅲ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①妊娠期、産褥期、新生児期の看護実践に必要な技術を根拠に基づいて実施する。 ②ウェルネスの視点から母性看護の対象者の対象に対する看護過程を展開する。			
【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	ウェルネスの看護過程	【演習】妊婦・褥婦・新生児のフィジカルアセスメント	
2	褥婦と新生児のアセスメントと援助計画 ～早期産後の生活に向けて～	【事例演習】産褥期の看護 【演習】褥婦、新生児のフィジカルアセスメント	
3			
4			
5			
6			
7			
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・欠席や遅刻、授業への参加態度も評価の対象とする。 ・出席・受講態度・提出物などを総合的に判断する。			
【テキスト・教科書】 ・母性看護学Ⅱ 周産期各論【医歯薬出版】 ・根拠と事故防止からみた母性看護技術【医学書院】			
【サブテキスト】 ・ウェルネスの視点に基づく母性看護過程【医歯薬出版】 ・病気がみえる vol. ⑩ 産科【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 こころの健康			
【開講時期】 1年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①こころの理解の仕方、こころの健康について理解する ②社会的背景と心の健康の関連について理解する ③精神看護の基本姿勢を理解する ④こころの健康問題を抱える人との「患者-看護師関係」のあり方を理解する。 ⑤こころの健康問題を抱える人とのかかわりを振り返る重要性を理解する。			
【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	こころの健康の概念	精神障害と精神保健 レジリエンス、リカバリーの概念 コミュニティ・メンタルヘルス	
2	こころのとらえ方	脳と心の関係（脳の構造と機能と認知機能）	
3		こころの構造と働き	
4	こころの発達に関する考え方	エリクソンの漸成的発達理論	
5		その他の発達論	
6	ストレスとコーピング	ストレスとは、ストレス対処行動	
7	家族とこころの健康	家族のライフサイクルの変化、家族システムという考え方	
8	生活の場とこころの健康	生活の場の特性と病理的現象（家庭の場 教育の場）	
9		生活の場の特性と病理的現象（職場・地域の場）	
10	危機介入	危機の概念、危機介入の目的と方法 災害時の地域精神保健医療活動の基本	
11		リエゾン精神看護	
12	患者-看護師関係	患者-看護師関係の重要性、ペプロウ、トラベルビー	
13	こころの健康問題を抱える人とのコミュニケーション	関係構築にあたっての基本的態度 心の健康問題を抱える人とのコミュニケーションの特徴	
14	プロセスレコード	ペプロウ、オーランド、ウィーデンバック プロセスレコードの書き方	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害の展開【メヂカルフレンド社】			
【サブテキスト】 ・公衆衛生がみえる【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 非常勤講師	
【科 目 名】 こころの健康を支える法と制度			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①こころの健康問題を抱える人を守る法律・制度について、歴史的背景を含めて理解する ②精神保健福祉法による入院患者への処置のあり方や入院形態について理解する。 ③こころの健康問題を抱える人の社会参加と権利擁護の理念に基づく地域生活支援について理解する。			
【授業形態】 本科目は医師または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	精神保健医療福祉の歴史と看護	諸外国における精神医療の歴史 日本における精神医療の歴史	
2	精神障害を持つ人を守る法・制度	精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇	
3		地域生活の再構築と社会参加 精神障害者へのケアシステムと支援に関する法律	
4	精神の健康問題を抱える人の地域生活支援	多職種連携による地域生活支援 長期入院患者の地域生活への移行支援 就労支援	
5	精神障害を持つ人をケアする家族への支援	精神障害の家族への影響	
6	司法精神医療	医療観察法（理念・医療の制度）	
7	精神医療の今後の展望	疾患をめぐる差別と偏見と患者処遇の歴史を背負う人の理解	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害の展開【メヂカルフレンド社】			
【サブテキスト】 ・公衆衛生がみえる【メディックメディア】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 こころの健康と看護 I			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①精神科の入院および治療・リハビリテーションの特殊性を理解し、治療的環境とくらしの場としての環境のあり方を理解する。			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	主な精神症状・精神状態像のとらえ方とその基本的な関わり方	精神症状・精神状態像の特徴と基本的な関わり方	
2		精神症状・精神状態像の特徴と基本的な関わり方	
3	安全な治療環境 (精神科における安全管理)	病棟環境の整備 自殺・自傷行為のマネジメント 包括的暴力防止プログラム (CVPPP)	外部講師
4		離院 身体拘束・隔離	外部講師
5	精神科薬物療法における看護	向精神病薬を使用している患者の看護 電気けいれん療法を受ける患者の看護	
6	精神科におけるリハビリテーション療法	様々なリハビリテーション療法 (精神科作業療法、レクリエーション療法、SST) と看護	
7	精神療法と看護	様々な精神療法の日常性 (支持的精神療法、認知行動療法、集団精神療法)	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・ 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 【メヂカルフレンド社】 ・ 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害の展開 【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 こころの健康と看護Ⅱ			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①精神状態に応じた看護の方法を理解する ②精神科治療過程におけるセルフケアの援助について理解する ③こころの健康問題を抱えながら生活することの意味をリカバリーの概念から理解する 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく・講義			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	こころの健康のアセスメント	こころの正常と異常のアセスメント 全体像をとらえる様々な視点	
2	こころの健康問題を持つ人のくらしとセルフケアの援助	オレムのセルフケア理論	
3	こころの健康問題を持つ人のセルフマネジメント	疾病教育 服薬自己管理	
4	精神疾患の急性期の看護	精神状態と身体状態のアセスメント	
5	精神疾患の回復期の看護	回復意欲への援助と休息の援助	
6	精神疾患の慢性期の看護	できることに視点を向けた援助	
7	精神疾患の退院時の看護	服薬自己管理への支援 こころの健康問題を持つ人をケアする家族への支援	
8	地域で生活する精神の健康問題を持つ人の看護	金銭管理への支援	
9	児童・思春期精神障害と看護	成長発達する力を引き出す援助	
10	事例検討	アセスメント	
11		看護計画立案	
12		実践（ロールプレイ）	
13		看護の評価	
14		リカバリーの概念の意義	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健【メヂカルフレンド社】 ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害の展開【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護実践マネジメント I (看護管理)			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 8コマ	
【科目目標】 ①看護マネジメントの基本について理解する ②看護組織と病棟管理者の役割を理解する ③看護師として業務を管理するために必要なことを理解する ④看護サービスの質保証と評価の考え方を理解する ⑤看護職としてのキャリア開発について考えることができる ⑥看護師として働いている自己をイメージできる			
【授業形態】 本科目は看護管理者または看護師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う			
【事前・事後学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	看護におけるマネジメント	看護マネジメントの目的とプロセス 病院組織とマネジメント リーダーシップスタイル	
2		看護部の組織 職務と職務規定 病棟管理者の役割	
3	看護業務のマネジメント	セルフマネジメント 看護基準と手順 クリニカルカルパス 勤務体制 夜間業務 ワークライフバランス 看護ケア提供システム	
4		医療情報の電子化と情報の取り扱い	
5	医療・看護における質の保証と評価	医療・看護の質保証と評価 評価の視点 病院機能評価 診療報酬による評価	
6	看護師のキャリア開発	継続教育 生涯教育 認定・専門看護師の資格と活動 特定行為を実施する認定看護師	
7	看護現場に影響を与える法と制度	看護師確保対策の法 ナースセンターの役割 看護政策と行政 看護の職能団体	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全【メヂカルフレンド社】 ・系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論【医学書院】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護実践マネジメントⅡ (医療安全)			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①基本的な医療安全対策が理解できる。 ②ヒューマンエラーのメカニズムについて理解する。 ③看護師が関与した医療事故やヒヤリハット事例から事故防止対策を立案する			
【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う			
【事前学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	医療事故の基本的な考え方	医療事故と医療安全の定義 国の医療安全対策 看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度	
2	組織の医療安全対策	組織として医療安全に取り組むことの意義 医療機関におけるインシデントや医療事故の報告制度	
3	リスクマネジメントのプロセス	リスクマネジメントのプロセスと分析	
4	起こりやすい医療事故と対策	患者誤認、薬剤・輸血関連、検査	
5		点滴ライン・チューブ・ドレーン・カテーテル管理	
6		転倒・転落、食事	
7	医療安全とコミュニケーション	正確なコミュニケーションの重要性	
8	インシデントレポート・医療事故分析	【演習】RCA分析の実際 (GW)	
9		RCA分析の実際 (GW)	
10	危険予測トレーニング	【演習】危険予測トレーニングの実際 (GW)	
11		写真から危険を予測する (GW)	
12		ストーリーから危険を予測する (GW)	
13		事故防止対策立案と実践 (ロールプレイ) グループ発表	
14		事故防止対策立案と実践 (ロールプレイ) グループ発表	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する ・出席・受講態度・提出物などで総合的に判断する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 看護の統合と実践 看護実践マネジメント 医療安全【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員	
【科 目 名】 看護実践マネジメントⅢ（多重課題）			
【開講時期】 3年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①複数患者を受け持つための情報収集・管理ができる ②1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理ができる ③多重課題の危険性を理解する ④多重課題発生時の対処の原則を理解し、一日の業務スケジュールを立案できる 【授業形態】 本科目は看護師の実務経験を有する教員が講義を行う 【事前学習】 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておく			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	多重課題と多重課題の原則	多重課題とは何か、 多重課題の原則 多重課題と医療事故	
2	優先順位のつけ方の基本と時間管理	優先順位のつけ方の基本 情報収集とスケジュールの組み立て方	
3	1日の業務スケジュールの組み立て方	多重課題を踏まえた行動計画	
4	複数患者を受け持つ1日の 業務スケジュールの立案	【演習】複数患者受け持ち時の行動計画立案 (情報収集)	
5		【演習】情報の整理と優先順位の判断	
6		【演習】タイムスケジュールの作成・検討 業務にかかる時間の予測 多重課題発生の予測と対応策 人的資源の確認と協力体制の予測	
7			
8			
9			
10			
11			
12	複数患者受け持ちの実践	【演習】複数患者受け持ち時の行動計画の実践 (発表)	
13			
14			
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全【メヂカルフレンド社】			

【区 分】 専門分野		【担当教員】 専任教員 ・ 非常勤講師	
【科 目 名】 災害看護学			
【開講時期】 2年次	【単 位 数】 1単位	【コ マ 数】 15コマ	
【科目目標】 ①災害の定義を理解する ②災害時にある人々の健康上の問題を理解する ③災害時にある人々の生命や生活を支えるために必要な基礎的知識を理解する ④災害時における看護者の役割を理解する ⑤援助的な人間関係に基づき、人権尊重、倫理的配慮ができる能力を養う ⑥諸外国の文化・社会的な違いや多様性を理解し、文化に適した最適な看護を探究する 【授業者】 本科目は看護師（災害支援）の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・新潟県中越地震以降に起こった災害の概要を調べておくこと ・講義終了後は配布資料等を用いて授業内容を復習しておくこと			
【回数】	【項目】	【内容】	【備考】
1	災害医療の基礎	1) 災害の定義・災害の分類・災害ハザード 2) 災害看護の定義と役割 3) 災害関連の法・制度 4) 災害看護と救急看護の違い	
2	災害医療の特徴 災害サイクルに応じた災害看護	1) 災害現場における体系的な対応 2) 災害サイクル別の看護活動 3) 救援体制と提供されるサービス	
3	被災者特性に応じた災害看護の展開(1)	1) 要配慮者・避難行動要支援者とは 2) 要配慮者・避難行動要支援者の特徴	
4	被災者特性に応じた災害看護の展開(2)	3) 要配慮者・避難行動要支援者に対する看護の展開方法	
5	被災者特性に応じた災害看護の展開(3)	4) こころのケア	
6	被災者への看護ケア(1)	避難所生活を送る被災者へのケア 1) 避難所における看護の視点 2) グローバルヘルス（保健医療福祉分野の開発理念の変遷、諸外国の健康問題の現状と課題）、スフィアプロジェクト（人道憲章と人道支援に関する最低基準） 3) 情報収集の方法	
7	被災者への看護ケア(2)	4) 避難所レイアウト	
8	被災者への看護ケア(3)	5) 看護活動（健康問題の予防対策）	
9	災害救援活動(1)	災害現場での実際 1) DMAT とは 2) 災害現場での看護師の役割 3) 救援者へのケア	外部講師
10	災害救援活動(2)	災害現場での実際 新興感染症対応について	外部講師
11	災害救援活動(3)	病院支援 1) 支援計画	
12	災害救援活動(4)	2) 信念対立の解決 3) 支援と受援	
13	災害救援活動(5)	国際救援のあり方 1) 人道支援 2) 文化を考慮した看護 3) 看護の国際組織と国際交流	
14	災害救援活動(6)	【演習】災害看護の方法（包帯法、搬送法、非常食調理）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り		
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する			
【テキスト・教科書】 ・新体系看護学全書 看護の統合と実践② 災害看護学【メヂカルフレンド社】			

